

---

# 夢の中で

ハチミツブタ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢の中で

### 【Nコード】

N2278Y

### 【作者名】

ハチミツブタ

### 【あらすじ】

小さい頃にすぐに両親や、身内を亡くしてしまった<sup>かんたき</sup>神崎 徹はあらゆる日を境に夢の中で悪魔と契約を交わし、悪魔が拾ったという小さな不思議な子供を育てることになる。そして、その子をこつ苦言まで育てることができたら、徹が一番願うものを叶えてやる。という約束をしたのだ。でも徹はその子供を育てていくうちに・・・

## 君に出会って

僕には、もう母親も父親も祖母も祖父もだれもいない。

父親は僕が生まれたころすぐに母親と別れた、母親は僕を産んでから半年後に癌になり、死んでしまった。

そして、僕はひとり取り残されたことに祖母は気づき育てることにし、僕を愛してくれていたが、祖父はあまり僕のことをいいと思っていなかったらしく、僕を見もしなかったらしい。

祖父は一回僕にこう言った。

「お前さえいなければ紀子（母親）は死ななかったんだ！！！」

と、僕に怒鳴り散らしてきた。いくら僕が一歳の小さい子供で理解不可能化もしれないけど、その時僕は強い衝撃を受けたからすごく記憶に残っている。

そして、祖父は衰弱していき、祖母は僕を十五歳まで育ててくれた。そんな祖母も九十歳になり、人生を終えた。

とうとう僕は一人になってしまった。

やはりこれは不幸な人生と言えてしまっただろう。

そんな僕ももう十七歳。

学校では静かに読書、友達は当然自分から行ったりしないのでゼロ人。

家に帰ればさみしい空っぽの部屋。

誰にも関わらないって楽かもしれないが、やっぱりひとり暮らしはさびしい。

寝る時もなぜかすごく怖い。夏でも寒く感じてしまう。

そんなさみしがり屋の僕の名前は神崎かんさき 徹とほる。

僕はいろいろ母のこととか知ってるけど、それはほとんど祖母の住山やま 和子かずこから聞かされて分かったこと、ほとんどの身内に僕はあったことがない。

祖父のあの言葉しか記憶にない。一歳のころのことなんか覚えてるのはすごいことだと思う。

僕はなんて・・・

今日のこの日も学校からスツと帰ってきてさみしい家に帰るだけ、と思っていた。

だが、この日は少しどこか違っていた。

学校の帰り道、僕はある占い師にあった。

ふつうに道の端っこに自分の占い商売のものを置いて椅子に腰を掛けて推奨を触りながらこう言った。

占い師「あなたには今後すごくあなたにとってうれしいことが起きます。」

徹「僕にとってうれしいこと？」

占い師「そうですね。あなたは今すごく悲しい生活をしていますね。

あなたは最近妙な出来事があったりはしていませんか？」

と、占い師は聞いてきた。

そう僕は確かに妙なことに同じ夢が続きに続いて見せられている気がするのだ。

僕は気づくと占い師がいなくなっていることに気が付いたのだ。

徹「あれ？占い師さん？」

あの占い師は何者なんだろう。

僕の横にフワッと何かが通り過ぎた。

そして、占い師に出会った後は、道端でタロットカードが落ちていた。

どうやら幸福を表す感じの絵のようだ。

徹「今日家に帰ったら急に恋人がいるわけでもなものになぜかドキドキする。」

そのあと、徹は急いで家に帰った。  
すると、夕食が作られていた。

徹「ええ！！なにこれ！？誰が作ったんだ？」

徹は誰が作ったのかわからない夕食を食べるわけにもいかなかった  
ので、そのままベッドにもぐりこみ深い眠りについた。

徹「ここは・・・またこの夢の中か。」

徹がここのところ見る同じ夢は、深い深い霧の中にそびえる黒い城。

そこには、悪魔がいつも住んでいて毎回徹を呼ぶのです。

「お〜い。その人間。ちよいと来い。」

徹は無視するということが良心が痛むからできない子なので、悪魔に近寄ります。

そしてこう問います。

徹「悪魔さん、なんなんですか。毎度毎度僕を呼び出して。何のようですか。」

そして悪魔はいつも通り、こう言います。

悪魔「人間。お前にどうしても育ててもらいたい奴がいる。」

徹「なんですか？育てるって・・・何を・・・」

悪魔「これなんだ。」

そういつて悪魔が見せてきたのは本当に米より少し大きいといったくらいの、小さな小さな女の子だったのだ。



君に出会って（後書き）

「夢の中で」を読んでくれてありがとうございます。

初めてでいろいろ考えて作った作っただです。

読んでもらえたらうれしいです。

読者様がたに気に入ってもらえる作品になるようがんばります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2278y/>

---

夢の中で

2011年11月5日00時02分発行